

# 利賀ダム

民主党政権のもとで全国のダム建設の見直しが始まり、利賀ダムもその対象になりました。

砂田市議は12月県議会での火爪県議(日本共産党)の質疑を踏まえ、「治水効果はあるのか」「地滑り地帯にダムをつくって大丈夫か」と疑問点を挙げ、「この機会に利賀ダムの必要性和効果を市独自でも検証すべきではないか。小矢部市は、効果をよく調べもしないで、重点要望に利賀ダムの建設促進を繰り返しているが、これは見直す必要がある。」と質しました。

## ほんとうに洪水対策に役立つのか

### 堤防の補強こそ有効ではないか

砂田市議は庄川の洪水対策

これを防ぐには、堤防の補強、仮に洪水が堤防を乗り越えても崩れないような対策をとるとか、霞堤などの伝統的な対策を強化した方が費用の面でも効率的ではないか。」

当局は「兵西各関係市とダム事業の継続を求めている。ダム事業の見直しについては、国土交通省が有識者会議で検討を始めたところであり、今後の推移を見極める必要がある。」としか、答えられませんでした。

として、利賀ダムよりも庄川の堤防補強こそ有効ではないかと、提案しました。

「利賀ダム工事事務所が作成した庄川水系庄川浸水想定区域図では、庄川の合口堰堤付近で堤防が決壊した場合に、正得地区の七社付近や、水島地区、松沢地区、荒川地区が水深0.5m未満の浸水が想定される。

## 利賀ダムの治水効果はごくわずか

### 火爪県議が指摘

その質問を紹介します。

### いつまでたってもできない長期計画

庄川河川の治水計画は、2本だ。1つは、「150年に一度の洪水に耐えられる」と言われる、砺波市雄神地点での基本高水流量を毎秒6500トンと設定した計画。

この基本高水の設定が高すぎるために、膨大な予算と年数がかかっている。いつまでたってもできない計画」との批判が専ら。

門家からあがっている計画です。

### 当面30年で整備する二つの計画

そこで、もう1つ別に、当面30年間で言うより小規模な「庄川河川整備計画(毎秒4200トンの洪水想定が作られました。

納得できないのは、なぜその30年間の計画に利賀ダムが必要なのかということ。

私は先の経済建設委員会で「毎秒6500トンの洪水の時に利賀ダムは毎秒5000トンの水をカットできるが、当面の整備計画である毎秒4200トンの洪水の時に利賀ダムは何トンの水をカットできるのか」と質問。後になって「それは毎秒1800トンである」との答えでした。

これだけの水位を他の方法でカバーするのに、いくらの事業費がかかるのですか。堤防のかさあげや川底の掘削、既存ダムの活用などで行うとしても、利賀ダムの事業費1億5000万円よりかかることはとても思われません。

### 庄川下流で8センチの水位低下効果しかない

これによれば、庄川下流の万葉線橋梁付近では「利賀ダムができて8センチしか水位を下げられない」。国土交通省はこの数字を、庄川流域懇談会にも示さず、経済建設委員会での私の質問に答えるために県が問い合わせても答えず、ホームページの河川整備計画の説明でも伏せています。「ダムの効果が小さいのを隠すためではないか」との指摘があがるのは当然です。

### 水道料金値下げを

水道料金値下げには、県企業局から購入している県水(子撫川ダムの水)の単価と割当水量を減らす必要があります。

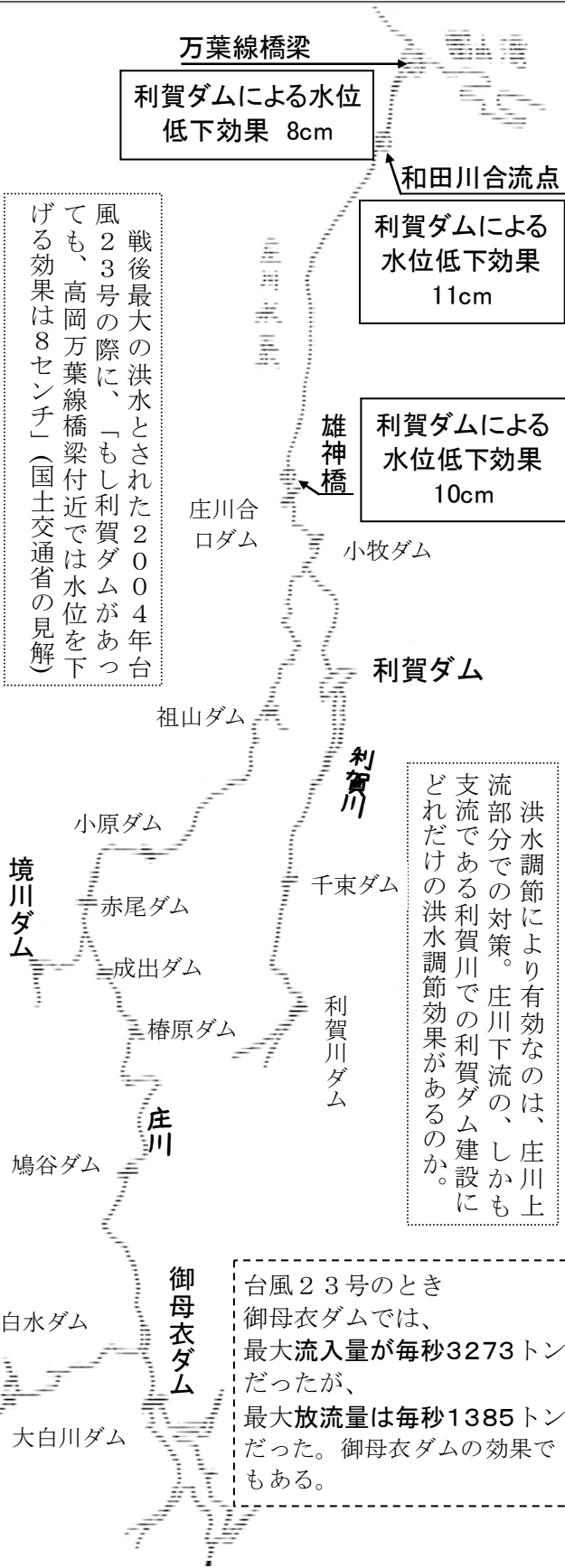
昨年結んだ受水協定は2010年度までの3年間、単価を1立方メートルあたり10円下げ75円とし、一日の受水量も6300立方メートルから6050立方メートルに減らしました。2010年度が再交渉の年度にあたります。

### 県と交渉 日本共産党

日本共産党富山県地方議員団は、住民からの要望を持ち寄って県当局に実現を求める交渉を昨年11月20、24日に行いました。小矢部市から砂田喜昭市議が参加しました。

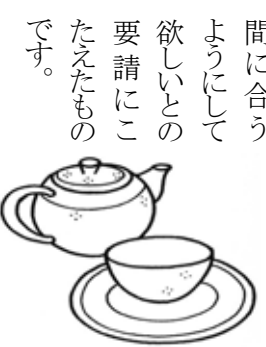


県と交渉する砂田市議(右端)-昨年11月20日、県庁



洪水調節により有効なのは、庄川上流部分での対策。庄川下流の、しかも支流である利賀川での利賀ダム建設にどれだけの洪水調節効果があるのか。

台風23号のとき御母衣ダムでは、最大流入量が毎秒3273トンだったが、最大放流量は毎秒1385トンだった。御母衣ダムの効果でもある。



こんどの交渉で企業局側は、今後の水需要予測を、今年度中に各市から聞き取り、新しい受水協定の参考にしたいと述べました。受水協定の見直し作業を早め、市の予算編成に間に合うようにして欲しいとの要請にこたえたものです。